

こころの便り

第234号

令和元年9月

〒679-1434
兵庫県たつの市新宮町大屋六六八-十二
株式会社 新宮運送グループ
代表/木南 一志
kinami@shingu.co.jp
電話 079-1-75-1212

習慣を変える

我が国は災害が多いぶん、明日の天気や風の動きなどを予知する力が必要になります。先人の多くが雲の流れや風の匂いを感じながら、海では漁に出るかどうかを、山村では稲の育ち具合を予測したのは生活の知恵といえるでしょう。

今年、新帝陛下が天照大神をはじめとする皇祖とともに五穀豊穡を感謝し祈られる大嘗祭が十一月十四、十五日に行われます。我が国は、稲を育てて、米を食べるといって食文化が神話の時代から続いている世界で唯一の国です。

台風や地震、大雨に大雪、津波に竜巻など、大自然とともに厳しい条件を生き抜いてきた先人の知恵に現代の私たちは学んでいるでしょうか。令和という新しい時代を迎えた節目の年だからこそ、振り返るべき学びがあるように思えてなりません。「令和」という元号が万葉集からの出典ということも、何かを教えてください。さっているように思えてなりません。

伝統として文書に残すことなく各地で言い伝えとしての教えは、その地における生き方を先人が残してきたものです。高松で「田吾作村」を運営されている平木美千代さんの通信から、香川県にある満濃池の歴史を学ばせてもらうことができました。四国の稲作を救うために多くの先人が身体を使ったり、多くの資金を提供したり、幕府に命を懸けて願ひ出たりして現在の豊かな満濃池があります。同じように弊社の前を流れる栗栖川の最上流には栗栖池が

あります。その昔、延べ八万三千人もの村人が池をつくるために働いたと聞きました。災害を防ぐことや農業をやりやすくという目的でダムをつくって水を調整できるようになった現在でも、雨の降り方まで調整することはできません。人工知能が車を自動運転するように、自然災害は起きてきます。

長い時間をかけて作られてきた習慣は、私たちに大きな影響を与えるものほど日頃、気づくことはありません。太陽の光の恵みや空気という存在を思えば実感できることでしょう。

大きな存在に気づくためにできる小さなこととあります。それは習慣を変えるということとです。今まで玄関を右足から出ていたか左足だったか、案外覚えていないこととです。その無意識の習慣を、意識して右足からと変えてみるのです。忘れないように、明日も同じように右足から。毎日繰り返ししていく中で、気づかされることが出てきます。何も感じないとすれば、ちよつと危ないかもしれない。習慣を意識することで、見えなかった大きな流れが感じられるようになってくるのです。遺伝子は私たちの体の中にすでにあるのですから、思い出すだけのことです。

便利な時代だからこそ、できることがあります。まず、自分から始めることです。かくいう私もお調子者を変えねばならぬと日々反省しております。

被災地にこころを寄せながら

木南 一志 拜

尋常小學校修身書 卷五 兒童用

第二十四課

謝恩

豊臣秀吉の夫人は織田信長の足輕の娘であります。信長の家來に伊藤右近といふ人があつて、夫人の生まれた時から引取つて親切に養育し、大きくなると世話をして奉公に出しました。其の頃、秀吉は木下藤吉郎といつてまだ低い身分であつたが、夫人を妻にもらはずと思つて、其のことを申し入れました。夫人はまづ右近の所へ行つて相談すると、右近は、「藤吉郎はちゑのすぐれた人だから、未の爲によろしくらう。」と言つて、いろいろ支度をとつて、藤吉郎と結婚させました。



其の後、藤吉郎は次第に立身して、とうとう太閤秀吉といつて、日本國中の人から尊ばれる身となつたが、昔世話になつた右近のことを忘れず、方々をさがさせて、やつとたづね出し、其の妻と一しよに大阪城につれて來させました。秀吉夫婦は大そうねんごろに右近等をいたはり、昔のことなどを言出し、涙を流して世話になつた禮を言ひ、夫人自らたくさん物を持出して與へました。此の時、夫人は右近等の側により、「お身等の綿入は汚れてゐるから、私が洗濯してあげませう。」と言つて、別に着物を出して着かへさせました。それから十日程たつて、右近夫婦を招いて、「さきの洗濯が出来ました。」と言つて渡しました。秀吉は右近に祿を與へて、大阪に住まはせることにしました。

NPO法人 愛ランド様の協力で障害を持つ皆さんが宛名貼り、封入作業をしてお届けさせて頂いていただいております。